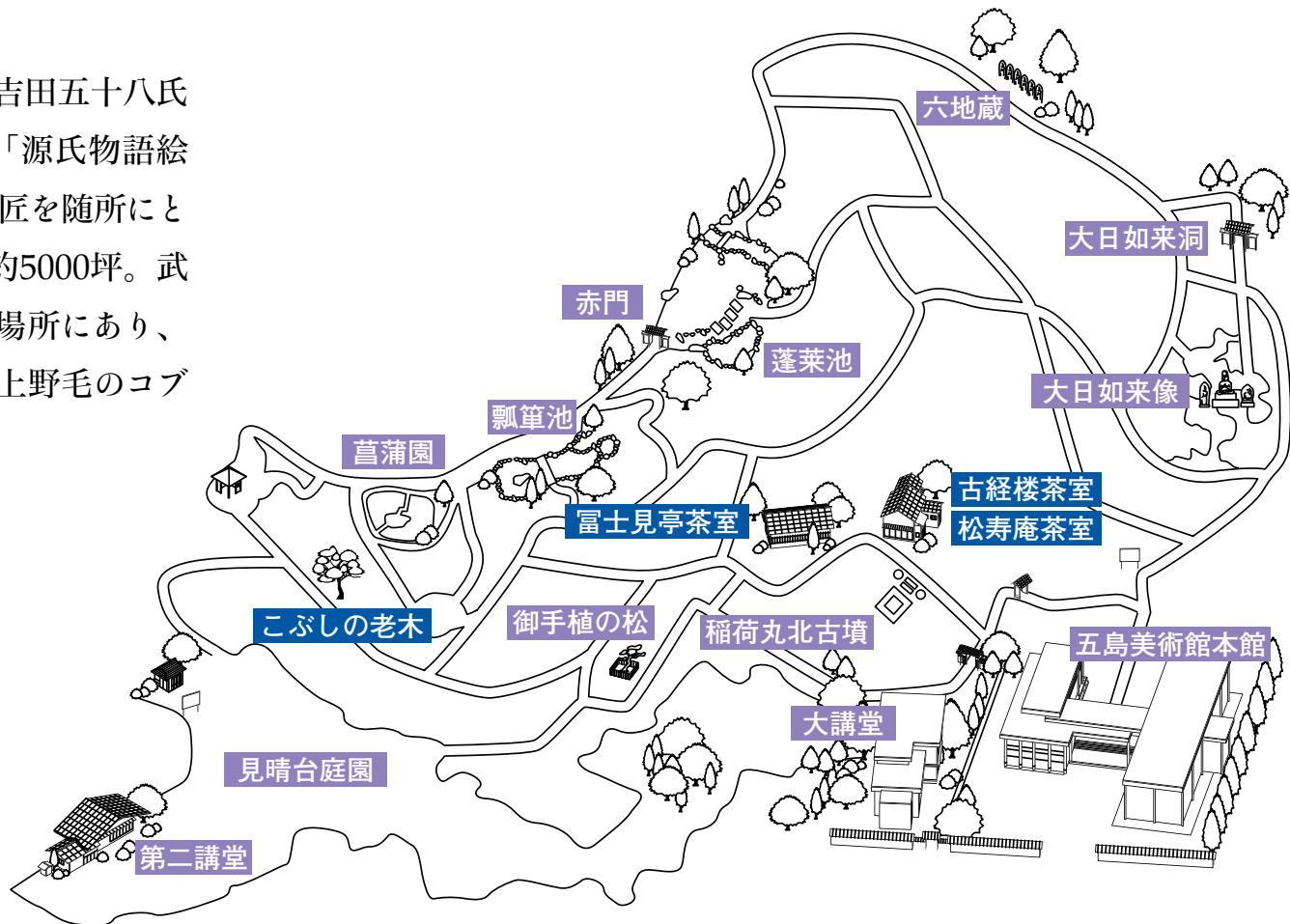


## 五島美術館 建物・庭園

建物(本館)は、和様空間の案出に秀れた芸術院会員・吉田五十八氏(1894-1974)が設計しました。当館が所蔵する国宝「源氏物語絵巻」・国宝「紫式部日記絵巻」にふさわしい寝殿造の意匠を随所にとり入れたものになっています。敷地は庭園を含めると約5000坪。武蔵野の雑木林の台地が多摩川に向かって深く傾斜する場所にあり、庭園内には、茶室(非公開)、東京都指定天然記念物「上野毛のコブシ」などがあります。



## 上野毛のコブシ

樹高12m 幹廻り2.8m(芝付) 枝張り15m  
東京都指定 天然記念物(昭和35年12月13日指定)

コブシ(辛夷)は、モクレン科の落葉高木で、名称は「にぎりこぶし」のような形の実からついたといわれています。昔、この花が咲く頃、各地で田仕事を始めたところから、タウチザクラの別名もあります。五島美術館の庭園の奥、南傾斜地に成育する「上野毛のコブシ」は、樹齢250年(推定)の老木で、概ね3年に一度満開となります。見頃は3月中旬から下旬にかけて、桜より10日ぐらい早く開花します(天候により開花時期が変動する場合があります)。かつては、5本に分かれる株立ちでしたが、平成14年の台風により2本が倒伏してしまいました。

しかし、その後の懸命な樹勢回復策により、当たり年には大形の花をつけ、来館者の目を楽しませてくれます。

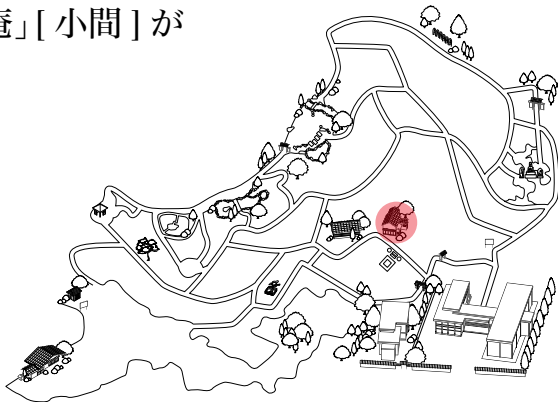


## 茶室「古経楼」

五島美術館庭園・非公開

関東間／一畳 88.0cm × 176.5cm ／ 炉 一尺四寸

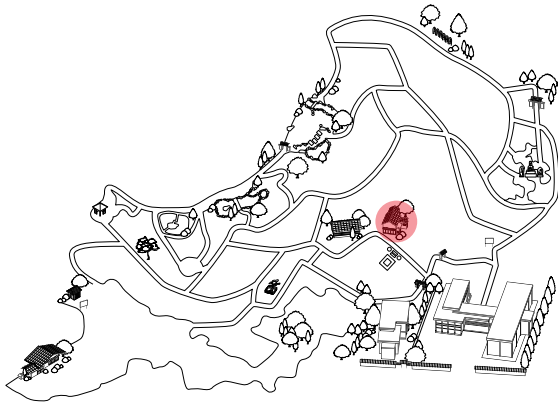
「古経楼」とは、古写経を好んだ五島美術館の創立者五島慶太(1882～1959)の号です。もとは台湾総督や逓信省総務長官を務めた田(でん)健治郎(1855～1930)が、明治39年(1906)に台湾檜を取り寄せて建築した茶室でした。大正10年(1921)には田家への皇太子(後の昭和天皇)行啓をひかえ、十二畳半間および八畳間、庭側の広縁を含む現状に近い姿へと改修されました。田の没後、五島の所有に帰し、四畳台目隅板の席「松寿庵」[小間]が加えられています。



## 茶室「松寿庵」

五島美術館庭園内(茶室「古経楼」の内)・非公開  
京間／一畳 92.5cm × 189.5cm ／炉 一尺四寸

小林一三、松永安左衛門、畠山一清などの勧めで茶道を始めた五島慶太が、昭和15年(1940)、古経楼に増築した四畳台目隅板の席。当時の茶道建築界の第一人者、仰木魯堂(おおぎろどう)翁の門下である蓑原善次郎氏による設計で、小堀遠州好みの席をもとにしています。



## 茶室「富士見亭」

五島美術館庭園内・非公開

点前畳二畳のみ京間／一畳 97.0cm × 191.0cm (他は変型畳)／炉 一尺四寸

昭和32年(1957)、五島慶太自らが発案し、藤森明豊、中村雄造両氏が設計製作した茶室。席に掲げる額の「富士見亭」の文字は、五島慶太の自筆です。履物を履いたまま腰掛ける立礼席で、晴れた日には長く広い肘掛窓から富士山や丹沢の山々を眺めることができます。畳敷長四畳半の西側窓寄りに隅炉を切り、炉壇には小豆石を使用しています。茶室各部に奈良西大寺山門の古材を用いるなど、随所に意を凝らした茶室です。

